

昭和48年度文化庁芸術祭主催公演

日本音楽集団演奏会

伝統楽舞のさまざまな組合せによる



'73.10.5(金) 7:00
虎の門ホール

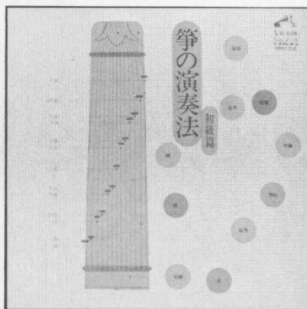
ENSEMBLE NIPPON The 20th Regular Concert

邦楽器の入門にお奨めする 話題のレコード!!



尺八の演奏法

宮田耕八朗



箏の演奏法

初級編

箏の演奏法 （初級篇）

初めて「箏」にふれる人が確実に「六段（初段）」を弾けるようになった。尺八と箏の合奏の練習もできるように編集・構成してあります。

■監修 文部省教科調査官花村大
■構成・解説 茅原芳男

- 二音の旋律 調絃・練習曲（からすからす他）
- 三音の旋律 調絃・練習曲（タヤけ、えげ他）
- 四音の旋律 調絃・練習曲（かゝめかゝめ他）
- 五音の旋律 調絃・練習曲（虫の音他）
- 陽音階の旋律 調絃・練習曲（越天楽他）
- 陰音階の旋律 調絃・練習曲（さくらさくら他）
- 弱押し 調絃・練習曲（こしのぼたん）
- 平調子 調絃・練習曲
- かき手の奏法 練習曲（子もり歌）
- すくいづめ 練習曲
- 強押し 練習曲（荒城の月）

◆野坂恵子 / 尺八 宮田耕八朗

◆30cmステレオLP ¥1,800

◆S J L - 2115

ピアノの伴奏付きで、初心者にも楽しく独習できるように構成してあります。

尺八の 演奏法

演奏の基本練習

- 二音の練習
- 乙音で出来る練習曲
- 甲音の練習
- 2オクターブの練習
- メリとカリの練習
- 各種音の練習①
- 各種音の練習②
- 各種音の練習③
- 各音の練習④
- 連音を指で打つ練習
- 参考曲 鶴の巣籠
- 構成 尺八 宮田耕八朗
- ピアノ 中島和子
- ピアノ編曲 長沢勝俊

◆30cmステレオLP

◆¥2,000

◆S J L - 62



ビクターレコード

ご あ い さ つ

文化庁芸術祭執行委員会会長

文化庁長官 安達健二

昭和48年度芸術祭主催公演の「日本音楽集団演奏会」を開催するにあたり、ひとことごあいさつを申し上げます。

すでに御承知のとおり、芸術祭は、芸術家の方がたに意欲的な公演を発表していただくとともに、ひろく国民のみなさまに、すぐれた芸術作品を鑑賞していただき、我が国芸術文化の向上と普及をはかろうとするものであります。

この芸術祭は、昭和21年の秋、戦後の荒廃のさなかに誕生し、こととして28回目をかぞえるにいたりました。この間、芸術各界の御協力と国民各層の御支持とにより、年とともに成長をとげ、今日では芸術の秋をいろどる一大祭典に発展いたしました。これは我が国芸術文化の振興のうえにまことに喜ばしいことであります。

ことしの芸術祭では、主催公演、協賛公演並びに参加公演それぞれに例年以上の多彩な催しがくりひろげられることになっておりますが、とくにここに御鑑賞いただく「日本音楽集団演奏会」は、そのサブタイトルにもありますように、我が国の伝統楽器をさまざまに組合せて演奏し、あたらしい音の世界をひらこうとする試みであります。この意中から、伊福部昭氏に郢曲「鬢多々良」、入野義朗氏に日本楽器のための「逍遙」をそれぞれ作曲委嘱し、その演奏には、すでに和楽器のあつかいでは定評のある日本音楽集団があたります。また、創作委嘱曲のほかに、現代邦楽としてすぐれた評価を得ている曲目を選んで演奏いたします。

わたくしは、この公演が我が国芸術文化の発展に大いに寄与するものであり、また、その内容はかならずやみなさまの御期待にそえるものと確信し、御清覧に供する次第であります。

主演・日本音楽集団 三絃独奏／杉浦弘和 指揮／田村拓男
客演・ソプラノ／増田睦実 バリトン／中村義春 合唱／東京荒川
少年少女合唱隊 笙／多 忠麿 ひちりき／大縁永夫
竜笛／芝 祐靖
主催・文化庁芸術祭執行委員会 制作・日本音楽集団
企画構成・宮田耕八朗・霜島素子

プログラム

1. 音取 ね・とり〈開幕のためのセレモニー〉より
2. 日本楽器のための 逍遥 (委嘱・初演) / 入野義朗

笛/望月 尺八1/宮田 尺八2/坂田 三絃(細)/杉浦
三絃(太)/坂井 琵琶/半田 箏1/野坂(20絃) 箏2/
白根 17絃/宮本 打楽器/清水(大太鼓, 木魚, 鈴, ドラ)
尾崎(小鼓, 〆太鼓, 鈴, 大拍子) 指揮/田村

3. 三絃協奏曲 / 長沢勝俊

三絃独奏/杉浦 笛/望月 尺八1/宮田 尺八2/坂田
琵琶/山田 箏1/白根・池上 箏2/野坂・吉村
17絃/宮本・菊地 打楽器/堅田(〆太鼓, 桶胴, 大太鼓)
小幡(〆太鼓) 指揮/田村

—— 休 け い ——

4. 詩と和楽器による阿波の子夕又キ譚 / 詩・富士正晴
曲・三木 稔

笛/望月・鳳声 尺八1/宮田(ひちりき)・石井 尺八2/
三橋・福田 尺八3/坂田・関 三絃(細)/杉浦・野口
琵琶/山田・半田・田原 箏1/坂井(胡弓)・花房 箏2/
白根・池上 箏3(20絃)/野坂・吉村 17絃/宮本・菊地
打楽器/堅田(木鉦, 桶胴, 木魚, 大拍子, 〆太鼓)
尾崎(小鼓)・清水(大太鼓)・小幡(びんざさら)
語り/増田陸実(ソプラノ) 旅商人/中村義春(バリトン)
合唱/東京荒川少年少女合唱隊 指揮/田村

5. 郢曲 鬢多々良 (委嘱・初演) / 伊福部 昭

篠笛1/望月 篠笛2/宮田 能管/鳳声 竜笛/芝 祐晴
笙/多 忠麿 ひちりき/大窪永夫 筑前琵琶/山田
薩摩琵琶/半田 箏1/野坂 箏2/坂井 箏3/白根
17絃/宮本 打楽器/清水(小鼓)・尾崎(小鼓)・堅田(大
鼓)・小幡(大太鼓) 指揮/田村

1. 音 取 ね・とり より

第19回定期演奏会で初演した三木稔のね・とり<開幕のためのセレモニー>から文字どおり音取の部分、調絃を完了するまでです。

いつしか始まり、さりげなく登場し、自然に音を取り、強いられることなく合わさり……。合奏への準備、今日のコンサートへの導入。指揮者が登場して逍遙へとつづきます。

2. 日本楽器のための 逍 遙 入野義朗

この曲は今年、日本音楽集団のために作りました。ここ数年来、日本の伝統楽器のための曲をいくつか書きましたが、それらは箏と尺八だけでした。今度の場合、なるべく大きなアンサンブルの曲を、という注文なので、はじめてこういう伝統楽器だけのヴェラエティのあるアンサンブルを作ってみました。

「逍遙」という題にするかどうかは大分迷いました。内容的にはきまっていたのですが、この題が果して音楽の表題にきこえるかどうかという点です。逍遙は字義通りには散歩、そぞろあるき、などと同じといってよいでしょうが、ここではそれだけでなく、楽曲形式上の意味を含ませたかったのです。回遊式庭園の中をあるくように、ある場所をきっかけに全く新しい風景が展開し、しかもその新しさは全体としてみればやはり一つの連続である、というような構想をしてみました。

それに応じて、この曲は六楽章形式ですが、その楽章の配列順がある程度かえられます。「あ」「い」「う」という三つと「ア」「イ」「ウ」という三つの組になっており、どちらかは全体を用い、他方の二つをその間にはさむ、という具合です。例えば「あアいう」でもよし「アいうウ」でもよいわけです。そして全体の始めと終りに笛のソロのひとふしが付け加えられています。

「逍遙」ということはまた私に、昔ならったアリストテレスの「逍遙学派」とか荘子の「逍遙遊」を思いおこさせます。逍遙は単なる気ばらしではなく、それによって大きな精神の解放と高揚をもたらすはずです。この曲がそういう状態に少しでも近づければ幸いですと思っています。

3. 三絃協奏曲 長沢勝俊

永祿5年(1562)琉球から渡来したといわれる三味線は、琵琶法師の手を経て急速に民衆の中に広まり、細棹、中棹、太棹という音色のことなる各種の三絃を生み出し、日本独特の楽器としてその完成の度を深めていった。

以来、400年近い間、日本の主要楽器のひとつとして今に引き継がれて来ている。

この曲は、三絃のもつさまざまな魅力を、独奏三絃と、他の日本楽器群との対比の中でとらえようとしたものである。全体は三つの章に分かれており、第一章は細棹により華やかに。第二章は、細棹の駒と撥を変えて沖縄の三味線ふうに。第三章は低音三絃により民謡三味線ふうにつくられている。

1967年、「三絃と日本楽器によるディベロプメント」という題で作曲・初演され、今回は集団にとって三度目の演奏である。再々演にあたって、独奏三絃の部分と第三章の一部を手直しして、題名を「三絃協奏曲」とあらためた。

4. 詩と和楽器による 阿波の子タヌキ譚

いまはむかしのものがたり
山のふもとの林のなかに
狸の子供が二匹いた
オスメス子だぬき二匹いた
おやのおらぬまはたいくつで
ねたりおきたりはしったり
いたずらしても気が晴れず
誰かこぬかと待っていた
あそんでほしいと待っていた

メスの子タヌキはいつも赤デンチュ
の女の子に化けます。

デンチュとは、殿中で着用したカミ
シモに似ていることからチャンチャン

コのこと。その赤デンチュは、年よりにおぶさって肩をたたくのが唯一の化かし芸。この物語の中では旅商人の荷の上にジョラ（あくら）を組んで「それはほんまに行儀がわるい」とたしなめられると、すなおにちんと座りなおして肩たたきをします。

オスの子タヌキは小僧に化けます。

自分を蹴らせると、どんどん数が増えて、つかれた旅人をついでではこぶのが得意。

どちらも夜明けの鶏が鳴いたら帰らねばならず、それまでトントン、ホイホイホイとにぎやかに、まことににぎやかに……。

日本のいろいろな楽器を使い、その特性も随所に披露しながら、日本の楽器がもともと仲の良い友達だったことを誰もが気がついてくれるように親しみやすく作曲しました（と作曲したタヌキが申ししております）。

阿波（徳島）の伝説をひとつの詩にまとめあげてくれた富士正晴氏、話のすじが判るようにとスライドの絵も書きました。

1971年にこれを企画制作した四国放送は、その年の芸術祭ラジオ部門音楽の部で優秀賞を受賞しました。その時の合唱は徳島少年少女合唱団で、昨年この曲を日本音楽集団といっしょに東京公演及びレコーディングをしています。今回は“心でうたいあげる”東京荒川少年少女合唱隊です。その子タヌキぶりや如何に。 宮田

5. 郢曲 鬢多々良

伊福部 昭

郢曲えいよくとは、平安中期にわが国に興った音楽の一形態であるが、様式としては、宮廷社寺楽と庶民の俗楽との中間に位していた。

したがって、旋法なども、わが国と唐・天竺などとの混淆にあったと考えられている。

鬢多々良むすたたらとは、比牟多々良などとも記されるが、詠唱を伴ったかなりくつろいだ舞い楽で、あまり厳格に定った振りはなかったらしく、各自が自由に舞い、やがて乱舞に至るのが常であったとされる。

日本音楽集団公演及び団員の今後の予定

- 10月 6日 和歌山県民文化会館 7日 相生市民会館
23日 十七絃による宮本幸子リサイタル<第2回>日経ホール
11月26日 名古屋 27日 福岡 28日 熊本 30日 広島
12月 1日 福山 2日 松江 4日 徳島 5日 岡山
6日 大阪(第21回定期・第2回関西公演) 7日 京都
1974年1月23日 伝統音楽シリーズ(第3回)中野・梅若能楽学院会館
2月27日 第2回新人演奏会 研究団員第2期生を中心に
青山タワーホール
5月14日 第22回定期演奏会 都市センターホール
6月 4日 日本音楽舞踊会議と共催で新作発表 研究団員が中心に
出演 朝日生命ホール

日本音楽集団団員連名

<団員>

望月太八 (篠笛・能管)
宮田耕八朗 (尺八・横笛各種)
坂田誠山 (尺八)
杉浦弘和 (三絃)
山田美喜子 (筑前琵琶)
半田綾子 (薩摩琵琶)
坂井とし子 (箏・三絃)
白根きぬ子 (箏)
野坂恵子 (箏・三絃)
宮本幸子 (十七絃)
田村拓男 (指揮・打楽器)
清水義矩 (打楽器)
尾崎太一 (打楽器)
藤舎成敏 (打楽器)
高橋明邦 (打楽器)
堅田啓輝 (打楽器)
長沢勝俊 (作曲・集団代表)
三木 稔 (作曲)

<研究団員>

鳳声晴由 (篠笛・能管)
三橋保源 (尺八)
石井寛道 (尺八)
野口美恵子 (三絃)
田原順子 (筑前琵琶)
吉村七重 (箏)
池上早苗 (箏)
菊地麻美子 (十七絃)
霜島素子 (理論)
関 一郎 (尺八)
福田輝久 (尺八)
花房はるえ (箏)
長沢宥子 (箏・十七絃)
小幡 亨 (打楽器)

<団友> 芝 祐靖・増田睦実・砂崎知子・芹沢英雄・鞍掛昭二
川崎祥悦・佐藤敏直・元橋康男・広瀬量平・田中利光・仲俣申喜男

20 回定演を迎える「日本音楽集団」に対する

アマチュアからのことば

開放的という言葉は、日本音楽集団にぴったりである。

とかく閉じこもりがちな邦楽界の中から各界の第一人者が集まり、各々の技能を駆使して明日の日本音楽を目指している姿……伝統音楽を継承することに努力すると共に、更に新しい日本音楽の世界を創り上げようとするエネルギーに、全世界の人々が注目していることは事実でしょう。それは、現代邦楽が世界的に認められてきたことを物語っています。しかし反面、世界を意識するあまり、我々の感性から遊離してきているように思えるのですが……。

“子供のための組曲”のようなヒット曲がもっと沢山生まれて欲しいのです。

私達は、世界の日本音楽集団として、どんどん伸びて行って欲しいと願う一方、アマチュアのグループの指導にも、力を入れて欲しいと思います。時間に縛られているアマチュアグループでも手軽に理解し、演奏出来る曲をもっと紹介して欲しいのです。そしてまた軽井沢での合宿のような講習会を沢山開いて沢山のアマチュアのグループが出来て欲しい。ハートのない音楽がはびこる中で、私達のやるべきことは何かを常に考えて進んでいきたい。

コスモスは、集団主催の合宿によって生まれた自称・日本音楽小集団です。日本音楽集団を目標として学び・研究することにより、日本の心を表現することを目的としています。日本の各地に私達のようなグループが生まれ、交流が出来る機会を得たいと願います。

日本音楽集団の今後の活躍を期待いたします。

コスモス一同

雅と素の復興

風土記の抒情が甦る

人形風土記

／子供のための組曲

長沢勝俊

組曲「人形風土記」

ニポポ／こけし／のろま人形／
流しびな／きじうま／木うそ

子供のための組曲

日本音楽集団

●JRZ12523 ¥2,000



和楽器—その深遠な響き

●いにしえより伝えられた日本の楽器の特色が、わかりやすく解説されたファン必聴のアルバム。



日本の楽器

〔弦楽器〕 箏／三絃／琵琶
〔管楽器〕 尺八／篠笛／能管／笙／竈樂（ひちりき）
／童笛

〔打楽器〕 大太鼓／締太鼓／楽太鼓／鉦鼓／かっこ

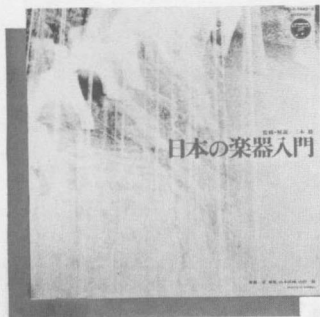
—合奏例—

「古代舞曲によるパラフレーズ」より 田舞／神舞
／祭りばやし／松竹梅／越天楽

日本の楽器



日本音楽集団／雅楽楽団
●立川清登／長沢勝俊（監修）
●JRZ12523 ¥2,000



*音とお話しによるわかりやすい!

日本の楽器入門

監修解説: 三木 稔
台詞: 秋浜悟史
お話し: 伊藤惣一

現代に生きる「日本の楽器」たちの今日の姿と明日の発展を求めて!

昔から今へ脈々と伝えられてきた日本の楽器たち、それら楽器たちの由来、機能、音域、奏法、調弦、そして現代における位置、それらすべてを収録した決定盤ともいえる入門レコードです。これから邦楽器を習いはじめる方、先生方、どなたにもわかりやすく楽器に手軽に親しめるよう多彩なアイデアをもりこんであります。再びクローズアップされている日本の楽器たちを自分のものにしてみませんか

■**箏のなかま** (作・構成: 野坂恵子)
《文様(あや)より》/《箏の音域》と《調弦》
《音色》/《唱歌》と《奏法》
《わらべ唄によせて》/《箏の種類》
《箏の合奏について》

■**尺八のなかま** (作・構成: 宮田耕八朗)
《尺八のなかま紹介》/《尺八の音域》と《音程の作り方》/《尺八の種類》/《奏法》
《古典本典「鹿の遠音」より》/《篠笛・能管・竜笛・ひちりき・笙》/《居機(いき)より》

■**三味線のなかま** (作・構成: 杉浦弘和)
《しやみ猫博士の冒険(前半)》/《胡弓》と《三味線のなかまの比較》/《三味線の調弦》と《音域》
《奏法》/《曲(くせ)より》/《琵琶の調弦》
《奏法と種類》/《三味線の種類》
《しやみ狸博士の冒険(後半)》

■**太鼓のなかま** (作・構成: 清水義矩、川崎祥悦)
《四拍子の紹介》と《唱歌》/《大太鼓による描写》
《擡(とう)より》/《雅楽の打楽器》
《打楽器のためのイントロダクション》

*収録楽器

十三絃箏、十七絃箏、二十絃箏、スチール絃箏、楽箏、尺八、篠笛、能管、ひちりき、笙、三味線(細棹、中棹、太棹)筑前琵琶、薩摩琵琶、胡弓、津軽三味線、大太鼓、ささら、木鉦、拍子木、四つ竹、銅襷、鈴 他

☆ **日本音楽集団** ▶ ELS-3342~3(2枚組) ¥3,000



*阿波の昔話にモチーフを得た現代音楽入門レコード!!
昭和46年度芸術祭優秀賞受賞作品

阿波の子ダヌキ譚 三木 稔作曲 富士 正晴作詩
(詩と和楽器による)

三つの阿波のわらべ歌(三木 稔作曲)
子供の四季(長沢勝俊作曲)

☆ **日本音楽集団** ● 徳島少年少女合唱団

▶ YS-10141 ¥1,900



コロムビアレコード

演奏会を充実させる

現代邦楽ライブラリー

現代邦楽ライブラリー①—————500円

三木 稔

四群のための形象

1. 文様/2. 居機/3. 曲/4. 摺

現代邦楽ライブラリー②—————300円

三木 稔

箏 譚詩集

現代邦楽ライブラリー③—————300円

諸井 誠

対話五題

二本の尺八のために

現代邦楽ライブラリー④—————300円

助川敏弥

邦楽器のための

形象

現代邦楽ライブラリー⑤—————500円

間宮芳生

四面の箏のための音楽

三面の箏のための音楽

現代邦楽ライブラリー⑥—————500円

小山清茂

和楽器のための

四重奏曲第2番

和楽器のための

三重奏曲

現代邦楽ライブラリー⑦—————300円

長沢勝俊

尺八・箏による

萌春

現代邦楽ライブラリー⑧—————400円

長沢勝俊

箏四重奏曲

現代邦楽ライブラリー⑨—————300円

清瀬保二

尺八三重奏曲

現代邦楽ライブラリー⑩—————500円

湯山 昭

三面の箏によるカプリース

現代邦楽ライブラリー⑪—————300円

三木 稔

独奏尺八のための

孤響

三本の尺八のための

ソネット

現代邦楽ライブラリー⑫—————400円

間宮芳生

尺八のためのプレリュード1

尺八のためのプレリュード2

お求めは有名楽器店・デパートでどうぞ



株式会社 全音楽譜出版社

東京都新宿区東五軒町25 ☎269-0121